

坂戸市をめざせ！

10月10日、当市は友好都市である坂戸市（埼玉県）と「大規模災害時における避難に関する応援協定締結式」を締結しました。おそらく全国でまだ例はないかもしれません。



高い確率で起きるといわれている関東首都圏を襲う大規模地震。現実となったとき、いったいどのようなことになるのか。東日本大震災をはるかに超える被害が予想され、加えて人流などの関係性は極めて濃密。市民の子弟が多く居住し、親戚や知己の方々など挙げればきりがなく、発災すれば天地がひっくり返ったような大混乱となるでしょう。情報が断たれ、連絡がつかなくなる。子弟などの安否確認ができないなど、南魚沼市役所には多くの市民が殺到し、何の準備もできていなければ市役所は対応が全くできないはず。

市長となって間もないころ、坂戸市を表敬訪問した際、ずっと胸に秘めていた1つのアイデアについて石川清市長に相談を持ちかけました。「二大有事の時、坂戸市に南魚沼市の基地を作らせてもら

えませんか？」はじめ理解が難しかったようでしたが、私の説明・提案に坂戸市長はその場で深く頷いてくださった。

前例はないがやろう、と協議を重ねてきましたがついに前進しました。すでに一般的な災害時の「相互応援協定」は2市の間で交わされていましたが、この度の協定をわかりやすく言えば、有事の際、坂戸市に南魚沼市の活動拠点（ふるさと）を速やかに立ち上げ、首都圏にいる南魚沼市民や出身者の避難を受け入れ、さらにそこから当市への避難ができるようにするものです。坂戸市は市内最大の体育館を提供くださり、今後当市は防災備品類を設置します。職員の交流なども視野に入れ、発災後ただちに前線基地を立ち上げ、情報収集などの活動を開始できる体制に。

坂戸市は首都圏からなんと1日で歩ける距離にある。交通機関が麻痺し、瓦礫が行く手を塞ぐかもしれません。それでも近傍にめざすべき場所があり、そこに故郷南魚沼の旗が立っている。ひとりでも多くの命を救わなくては。奇しくも本年は関東大震災から百年。その年に両市の関係深化を得ました。さあ、これからです。

※北陸地方などでの発災時は、逆に南魚沼市が坂戸市の活動拠点となります

国際大学留学生 お国自慢コーナー ~boast of my country~

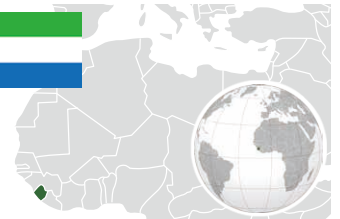
シリーズ 第127回

シエラレオネ共和国 シア アイ ニャンデモ さん



私の国はこんなところ

シエラレオネと聞くと、内戦、ブラッド・ダイヤモンド、エボラ出血熱、貧困、紛争を連想しますが、それ以上にたくさん魅力があるので紹介します。11種の霊長類や珍しいコビトカバなど、野生動物の宝庫です。首都フリータウンには長く続く砂浜があり、年間平均気温28度という快適な気候に恵まれています。また、植民地時代の数々の史跡があります。シエラレオネ人は非常に親切で祝祭が大好きです。12月は「聖年の月」として特段活気に満ちあふれます。国の東部は、豊富な天然資源を有し、石油の可能性も有望な鉱業地域となっています。内戦終結から23年、エボラ出血熱撲滅宣言から7年が経過し、安全面で目覚ましい進歩を遂げました。



南魚沼市に住んで感じたこと

南魚沼ではすばらしい人々に出会えたこと、地域の伝統文化に浸ったこと、美しい景色など思い出がたくさんありますが、なかでも、常夏の国から来た私にとって1番の思い出は、スノージャケットやスノーブーツで雪遊びをしたことです。スノーシューやスキーは楽しかったです。

編集後記

セルデン町のみなさんが当市に訪れ、離れていても歴史ある深いつながりがあることを改めて認識しました。今後もすてきな姉妹都市として相互発展できますよう、交流を続けていきたいです。(S.K)

今月の表紙

8月1日(火)~8日(火)、南魚沼市中学生海外派遣研修事業を実施し、アメリカ合衆国ワシントンDCとニューヨークに中学生・高校生を派遣しました。派遣生たちは現地ですさまざまな施設を見学し、アメリカの文化や歴史を学びました。

市民の動き 令和5年9月末日現在 ( )は対前月比

●人口 53,473人(+105) / 男 26,168人(+45) 女 27,305人(+60) ●世帯数 20,380戸(+176)